
頭上の侵入者

瀬戸律久

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

頭上の侵入者

【Nコード】

N4116R

【作者名】

瀬戸律久

【あらすじ】

夏といえば怪談。怪談といえば夏。1シーズンだけの勇気と興味。いつもどおりに始まり、いつもどおりに終わるはずだったのに…。

夏になると怖い話を読みたくなる。

夏以外の季節には興味もないし、逆に怖くて読みたくないのだが、夏になると何故か読みたくなってしまふ。

最近は便利なもので、インターネットで調べれば簡単に、上質で、完成度の高い話が見つかる。

その日もまた、インターネットで何かいい話はないかと探していると、とある話にたどり着いた。（後から知ったのだが、その話は結構有名な話らしい）

その話の冒頭には「怖い話をしたり、読んだりしていると、何かを呼んじゃうから気をつけて」的な文章があった。

よくある話なので、その文章を無視することにした。というより、いちいち真に受けていたら、怖い話が全く読めなくなってしまう。だから無視。

話も中盤に差し掛かったところで、部屋の天井から

コンッ コンッ コンッ

と、音がした。

これは、もしかすると、もしかするよなあ。と思い、怖くなってそのページを閉じた。

そうすると、音は止んだ。ほっ、と胸をなでおろす。

そこで、止めておけばよかったのだが、話の続きが気になり、またそのページを開き読み始めた。

そうすると、また

コンッ コンッ コンッ

と、音がする。

これは、本格的にやばいなと思いました、そのページを閉じた。

音は鳴りやまない。

あの時止めておけば良かったと激しく後悔する。

しかし後悔していても何も変わらない。このままだと、寝ることさえできない。時間は、午前2時。いつもなら夢の中だ。

意を決して、音の鳴る方を見る。

そこには、部屋の蛍光灯に猛アタックする虫の姿があった。

(後書き)

怖い話をしてしていると、「オチは？」と言われて困った経験はありませんか？

そういう話はないよ！っという経験から書いてみました。
感想などをもらえれば、嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4116r/>

頭上の侵入者

2011年10月8日20時28分発行